

第24回医学情報サービス研究大会参加記

別府 さおり

2007年8月25日(土)～26日(日)、夏期休暇を利用して長崎で開催された第24回医学情報サービス研究大会に参加しました。

毎年夏に開催されるこの大会の存在を知ったのは第18回の松山大会。以来毎回魅力あるプログラムに引かれながら、やっと初参加を果たしたのが昨年の千葉大会で、今回は2度目となりました。

さまざまな立場の方が所属を越え医学情報をテーマに集うこの大会は、今年もやはり昨年同様刺激的で楽しい2日間でした。

プログラムは、長崎総合科学大学のB. パークガフニ先生による記念講演に始まり、一般口演・ポスターセッション・プロダクトレビュー・継続教育講演となっており、日常業務に深くかかわるものから「アスベスト研究」・「マラリア研究」といった、臨床第一線の病院で働く私には普段縁が無い難しいテーマまで、盛りだくさんの内容でした。

どれも聴きごたえのある発表でしたが、特に印象深かったのは以下の2演題でした。

■「医療・健康に関する地域連携パスファインダーの作成」

私が勤務する病院から車で10分ほどの所に市立図書館があるのですが（そして自宅からは徒歩3分）、健康情報・医療情報コーナーというには寂しすぎるブースを見るにつけ、これでは物足りないと感じる市民がたくさんいるはずと

常々思っています。今回の発表を聞いて病院と地域が連携することで「こんな事も可能なんだ!」と嬉しくなりました。

■「看護分野の研究における著者キーワードについての分析と統計」

ちょうど大会直前に看護研究発表会の準備で四苦八苦していたこともあり、大変参考になりました。当院の看護部ではここ数年専門の先生にご指導をいただいております、結構な頻度で私の代行検索の結果にダメ出しがあり、そのたびに一人で落ち込んだり悩んだり…。今回の発表で、看護分野の研究者におけるキーワードの概念についての理解を深められたと思います。

大会2日目の朝は、会場である活水女子大学内のチャペルで日曜礼拝がおこなわれました。パイプオルガンの真横の特等席で音楽を聴いていると、ジーンと涙が出てきて荘厳な気持ちになりました。

初日のプログラム終了後には、長崎県立美術館近くにある「水辺の森レストラン（素敵なお名前）」にて懇親会が催されました。大ベテランの方が気さくにお声を掛けてくださったり、また初対面の方が思いがけず近くの図書館にお勤めであることがわかったりと、とても楽しい時間を過ごすことができました。

新しい出会いがあり、知識を深められたこの2日間のおかげで、ルーティンワークに追われ単調になりつつある毎日に喝!が入った気がします。

開催関係者の皆さまへ心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。